

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶株主総会ピーク

経営方針、共有の場に

三月期決算企業の定時株主総会が二十九日にピークを迎える。近年は休日開催の企業が増えるなど日程が分散する傾向にあるが、それでもこの日に約千五百社が集中する。五月の会社法施行もあり、買収防衛策の導入や配当政策の見直しなど定款変更が議題に上る企業も多い見通しだ。

経営陣は従来、会社提案の可決にのみ力を注ぎ、自分たちの経営方針と相いれない株主提案を疎んじる傾向が強かった。だが経営陣と株主は本来対立するものではなく、企業業績を拡大し利益を増やすという最終目標は同じはず。

株主総会は、どのように経営のかじを取るか経営陣と株主が議論し認識を共有する場であるべきだ。

会社提案の作成段階で機関投資家など大株主と協議する企業も増えている。経営陣を支え知恵を出す「サポーター」のような安定株主を得るために、経営陣は株主をむやみに恐れることなく、魅力ある総会にする努力が必要である。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。